

2024年度

霞が関インターンシップ 及び体験プログラム

霞が関公共政策大学院生インターンシップ
及び体験プログラム
霞が関法科大学院生インターンシップ及び
体験プログラム

この夏、霞が関を
体験しませんか!?

対象：公共政策大学院生及び法科大学院生

期間：7月下旬～9月

(このうち各府省が定める期間(5日間以上))

実施機関：参加各府省



2023年度霞が関インターンシップ等体験談

(霞が関インターンシップ(体験プログラム)等報告書より抜粋・一部修正)

公共政策大学院生インターンシップ等

(Aさん)学生としての考えをフラットに聞いてもらえる事が多く、職員のいいものは取り入れてみる、という姿勢を常に感じていたため、私自身も自由に考えを伝える事ができ、職員と活発な議論を行う事ができた事が印象的であった。

(Bさん)パンフレットや説明会だけでは知ることができない実務について、インターンシップの経験を通して知ることができた。政策の企画施、国民の生活への影響、行政機関の役割について理解を深めることができた。

(Cさん)様々な部署のオフィスや働いている職員の様子を見学する機会もあった。また、多様なポストの職員から話を聞いて、人柄も知ることができ、自分のキャリアを考える上で参考になった。

(Dさん)想像していたよりも、年次の上下関係なく、互いの意見を尊重しながら、のびのびと意見を交わしあうことのできる環境であると感じた。

法科大学院生インターンシップ等

(Eさん)課題検討を通じて、行政は法改正に携わることができ法律を適用する段階での問題意識を解決できる場であると実感できた。

(Fさん)条文を読むだけでは想像できない実際の現場を体感し、規定の必要性を改めて学ぶ機会となった。お会いした教官は検察官が多く、質問の機会も多数あったため、司法試験に向けた勉強のモチベーションとなった。

(Gさん)様々な法改正の場面に立ち会うことができ、法がどのように作られていくのか、その一部を間近で知ることができた。

(Hさん)法科大学院においては法律の適用や解釈を学習しているので、政策は縁遠という先入観を抱いていたが、政策は法律や政令等の上に成り立っており、政策の検討や決定にあたっては、他の法分野の考え方を応用したり比較することが有意義であることを知り、政策を身近に感じる事ができた。

Q1 参加してよかった点はどのようなことですか

<公共政策大学院>

A 各週で、異なるグループに配属されたため、共通点や相違点を意識しながら研究課題を調査・検討・発表することができた。これにより、立法・改正において最重要視されることや、意識すべきことを把握、理解することができた。

A 政策立案提言への実践的な学びを得られた点、行政機関でのキャリアについて深い理解を得られた点。

A 国で働く意義ややりがい、現場で働く職員から直接伺えたこと。国家公務員として国の問題を考えるのか、民間の方ができるとあるのか、それをどう協力すれば良いのか？ということまで考える機会をいただいた。

<法科大学院>

A 外交と法曹についての講義が、よかった

A 法科大学院出身の職員の方とお話できる機会があったこと

A 机上の勉強ではわかりづらい実務の法律運用、政策立案の方向性を学ぶことができた点

A 各週で、異なるグループに配属されたため、共通点や相違点を意識しながら研究課題を調査・検討・発表することができた。これにより、立法・改正において最重要視されることや、意識すべきことを把握、理解することができた。

Q2 公務の仕事の進め方や働き方改革、ワークライフバランスについて感じたことを教えてください

<公共政策大学院>

A 開かれた職場の雰囲気やその中で職員の方々が生き生きと前向きに仕事をされている姿を拝見し、自分もこうした職場環境で力を発揮してみたいと強く感じた。

A 予想以上にテレワークが浸透しており、働き方改革が進んでいることを感じる事ができた。

A やはり忙しそうという点には変わらないが、みなさん納得感や充実感を持って働いていることが分かった。

<法科大学院>

A 立法・改正に関する主要な作業を基本としつつも、他グループとの連携が強いと感じた。他グループの法改正問題に対する理解も常に意識しながら作業に当たることで、各グループが相互に協力しあい、より綿密で効率的な作業を行っていた。

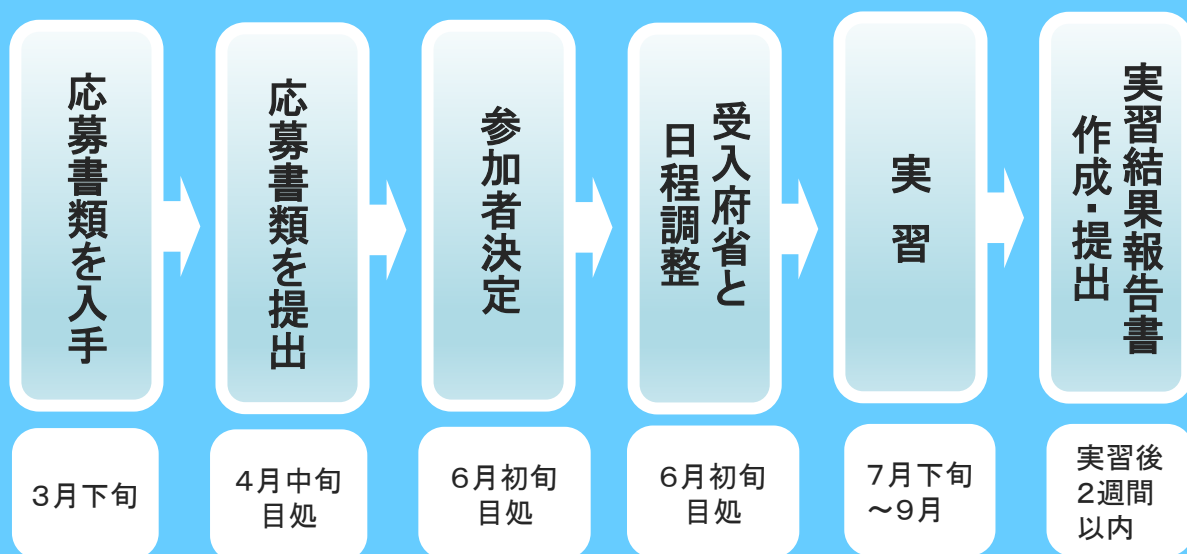
A 政策を進めるにあたって、様々な案や問題点を現場の事情を踏まえて検討されていることを実感できた

A テレワークをできる環境が進められている点が柔軟な働き方に繋がってよいと思った。

応募方法

応募書類の入手・提出は、所属の大学院を通じて行ってください

応募から修了までの流れ



前回(2023年度)の実施状況

霞が関公共政策大学院生インターンシップ等

人事院(1人) 内閣府(3人) 総務省(8人) 法務省(1人) 財務省(2人) 文部科学省(1人)
厚生労働省(7人) 農林水産省(1人) 経済産業省(7人) 国土交通省(4人) 環境省(4人)

□ 11 □ □ 39 □

霞が関法科大学院生インターンシップ等

総務省(1人) 法務省(5人) 厚生労働省(2人) 農林水産省(1人) 経済産業省(2人)

□ 5 □ □ 11 □